

公益財団法人セゾン文化財団

〈現代演劇・舞踊対象〉公募プログラム

2023年4月から2024年3月の活動・事業を対象

募 集

要 項

2 0

2 3

公益財団法人セゾン文化財団について

セゾン文化財団は堤清二(1927-2013)の私財によって設立された助成型財団です。1987年より日本の現代演劇・舞踊の振興およびその国際交流の促進に寄与するため、助成活動を行っています。当財団は以下の基本方針をもって支援活動を展開しています。

創造活動への支援

- 個々の公演ではなく、創造のプロセスを総合的にサポートしています。
- 新しい表現の探求と活動のステップアップに支援の重点を置いています。

長期的視点に立った継続的な支援

- 単発ではない、複数年にわたる助成を原則としています。
- 助成先との緊密なパートナーシップにもとづいた支援活動を志向しています。

資金のみではない複合的な支援

- 創造活動や学び合いのための「場」を提供しています。
- 団体の法人化、会計など活動運営に関する相談に応じます。

当財団が所有・運営する森下スタジオは、稽古専用施設です。稽古以外にも、ワークショップ、レクチャー、シンポジウムなどが行われています。

最新情報については、財団ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.saison.or.jp/>

現代演劇・舞踊対象—公募プログラム概要

2023年度助成対象期間

2023年4月1日～2024年3月31日に実施される事業

森下スタジオ使用対象期間

2023年4月2日～12月28日および、2024年1月4日～3月31日

p.2



セゾン・フェロー

現代演劇・舞踊界での活躍が期待される芸術家の創造活動を支援対象とする助成プログラム

p.3



サバティカル(休暇・充電)

サバティカル期間を設け、海外の文化や様々な芸術に触れることを目的とする助成プログラム

p.4



創造環境イノベーション

現代演劇・舞踊界が現在抱えている課題を明らかにし、その創造的解決を目指す取り組みに対する助成プログラム

p.5



国際プロジェクト支援

海外パートナーと共に、日本の舞台芸術の国際化を目的とする助成プログラム

p.6



寄付プログラム—次世代の芸術創造を活性化 する研究助成

次世代の芸術創造を活性化する提案や、政策提言を目的にした調査、研究活動を支援する助成プログラム

p.7-10

申請概要

p.11-12

森下スタジオについて



セゾン・フェロー

現代演劇・舞踊界での活躍が期待され、劇作、演出、振付に対する優れた構想と実績をもつ芸術家の創造活動を支援対象とする助成プログラム。

セゾン・フェローⅠ

独自で斬新な発想、実験精神が認められる作品創作、活動を継続しており、次代を担うことが期待される芸術家。

- a. 日本に活動拠点を置く。
- b. 2023年3月31日時点で40歳以下。
- c. 過去に3作品以上の劇作、演出、振付を担っている。

※採択は計3回迄。

セゾン・フェローⅡ

独自で斬新な発想に基づいた活動に対する一定の評価を得ており、国際的な活躍と社会的影響力を持つことが期待される芸術家。

- a. 日本に活動拠点を置く。
- b. 2023年3月31日時点で原則45歳以下。
- c. 過去に3作品以上の劇作、演出、振付を担っている。
- d. 下記、一つ以上の要件を満たす。

当財団の助成歴がある(フライト・グラント除く)／受賞歴がある／国内外の著名なフェスティバル(メイン部門)・劇場から招聘歴がある。

助成内容：

- ・セゾン・フェローが直接かかわる舞台芸術の活動に対して助成金を交付する。
- ・希望者には公演稽古、ワークショップ開催などの場として森下スタジオ(スタジオ、ゲストルーム)を優先貸与。
- ・活動に関する情報提供。

I：100万円／年 2年間継続

II：250万円～300万円／年 3年間継続

Iの助成歴なくIIに採択された場合

II：100万円～300万円／年 4年間継続

※I・IIの継続の可否は毎年見直す。年度毎に申請が必要。

提出資料：

I・II共通

- ①所定の申請書(最近の主要な公演の映像資料含む)
- ②劇評(新聞、雑誌、ウェブサイト上での批評)
- ③顔写真(採択された場合は、広報資料として使用)

※IIのみ、申請書にエッセイ「演劇／舞踊活動における私のビジョン」(2,000字程度)をご執筆ください。

申請書交付申し込み期間

8月1日～9月21日

面談期間

～9月28日

申請書および資料提出締切

～9月29日

※面談ではこれまでの活動や申請内容のお話を伺い、また相談も受けます。申請書類が完成する前にご予定ください。



サバティカル(休暇・充電)

現代演劇・舞踊分野で継続的に作品を発表し、一定の評価を受けている芸術家がサバティカル(休暇・充電)期間を設け海外の文化や様々な芸術に触れてもらうことを目的としたプログラム。

対象者：

- a. 日本を拠点に劇作、演出、振付などの芸術家として10年以上の実績を有する、1か月以上の海外渡航を希望する個人。
- b. 2023年4月～2024年3月の間に、活動を振り返り、今後の展開のヒントを得たいと考えている方を優先する。

※ 既に実施することが決定しているプロジェクトのための渡航(公演開催地の下見や打ち合わせ)は対象外。

※ 過去の助成対象者の体験報告は、ニュースレター〈viewpoint〉に掲載しています。

<https://www.saison.or.jp/library>

助成内容：

- ・ 100万円を上限に、渡航・滞在費用の一部に対して助成金を交付する。

提出資料：

- ① 所定の申請書(エッセイ「なぜ旅に出たいのか」A4サイズ1枚含む)
- ② 申請者の詳しい経歴(近年の実績を示す受賞歴、劇評など添付)
- ③ 計画書
- ④ 予算書
- ⑤ 顔写真(採択された場合は、広報資料として使用)

申請書交付申し込み期間

8月1日～10月6日

面談期間

～10月12日

申請書および資料提出締切

～10月13日

※面談ではこれまでの活動や申請内容のお話を伺い、また相談も受けます。申請書類が完成する前にご予定ください。



創造環境イノベーション

現代演劇・舞踊界が現在抱えている課題を明らかにし、その創造的解決を目指す事業に対する助成プログラム。

※賞設立は対象外。

I スタートアップ

創造環境で新たに必要とされる取組み、舞台芸術の価値をより多くの人々に理解してもらうための取組みで、効果を検証できる事業を重視する。

II 舞台芸術の観客拡大策

ここでは、動員数の増加、観客層開拓、広報・宣伝方法の開発など、人々が舞台芸術に関心を抱くよう働きかける新しい方法（販売促進、営業方法）およびその効果を検証できる事業を対象とする。

※I、IIともに新規事業が対象。公演の実施が目的の場合は対象外。効果の検証を中心に予算を策定すること。採択された場合は成果を公開し、普及、共有すること。

対象事業例：

- ・ 京都国際舞台芸術祭実行委員会「多様な観客を創造するー英語を活用した“飛び石”プロジェクト」(2018年度～2020年度)
- ・ 舞台芸術制作者オープンネットワーク(ON-PAM)「舞台芸術の持続可能な創造環境に向けての連続講座」(2021年度～)
- ・ 全国小劇場ネットワーク「民間小劇場が連携し、地域に創造的な環境を築くプロジェクト」(2022年度～)

助成内容：

- ・ 企画予算の自己負担金を上限に、企画経費の一部に対して助成金を交付する。(100～200万円)
- ・ 希望者には事業の実施会場として森下スタジオを優先貸与。

※助成終了後の収支決算で余剰金が発生した場合、助成金の一部の返還を求めることがあります。

※なお、同一事業の助成は3年を上限とする。継続の可否は毎年見直す。年度毎に申請が必要。

提出資料：

- ①所定の申請書
- ②申請者(個人または団体)の詳しい経歴
- ③企画書
- ④収支予算明細書

※本プログラムに初めて申請する団体は、以下も提出すること

- ⑤定款、寄付行為、またはこれらに準ずる規約
- ⑥2021年度分の財務諸表または団体会計規則に基づく収支決算書

申請書交付申し込み期間

8月1日～10月6日

申請書および資料提出締切

～10月13日

※資料提出締切後、書類選考を実施し11月下旬に結果通知。通過者は、当財団アドバイザー委員会に対しプレゼンテーションを行う。(詳細は通過者に連絡)



国際プロジェクト支援 International Projects Support Program

海外のパートナーとの十分な相互理解に基づき実施内容や作品が発展していくプロジェクトを重視。現代演劇・舞踊の国際化を目的とした助成プログラム。準備段階にあたる会議、シンポジウム、レクチャー、リサーチ、ワークショップから成果発表となる公演等、プロジェクトに関わる全ての段階を対象とする。

対象事業：

国際交流事業の実績を持つ個人または団体が主体となつて行う共同事業で、中心となるアーティストが固定しており、あらかじめ決定している日本と海外双方の事業パートナーが、計画性をもって複数年（継続して）作業を進展させていくこと。

※公演段階での申請は、セゾン・フェローとして助成歴がある、または過去対象事業の継続申請のみ受け付ける。

※移動を伴わない方法（オンライン等）でのリサーチや創作も対象とする。但し、申請書に具体的な活動内容を記載すること。

事業展開例：

- ・準備年としてリサーチや滞在制作を経て日本公演後、海外ツアー。
- ・既に発表した作品をリサーチし直し、発表と複数の派生事業を実施。

助成内容：

- ・企画予算の自己負担金を上限に企画経費の一部に対して、150万円を上限として、助成金を交付する。
- ・希望者には公演稽古、ワークショップなど開催の場として森下スタジオ（スタジオ、ゲストルーム）を優先貸与。

※助成終了後の収支決算で余剰金が発生した場合、助成金の一部の返還を求めることがあります。

※なお、同一事業の助成は3年を上限とし、計画された期間内に完結することが望ましい。継続の可否は毎年見直す。

提出資料：

- ①所定の申請書
- ②申請プロジェクト全体の企画書
- ③申請年度（2023年度）の事業収支予算明細
- ④中心となる参加者の協働作業合意書、または受入団体からの招聘状（日付、条件、署名など必須）
- ⑤エッセイ〔申請者〕
- ⑥エッセイ〔事業パートナー〕

※⑤・⑥では劇作、演出、プロデュース担当等事業の中核となる人物が、「事業の目指すところ」を具体的にご執筆ください。（各2,000字／日本語以外の原文700ワードには和訳添付）

※同一事業で継続して申請する場合、上記の①～③は必須。④・⑤・⑥は、更新した情報がある場合に提出

申請書交付申し込み期間

8月1日～10月6日

面談期間

～10月19日

申請書および資料提出締切

～10月20日

※面談ではこれまでの活動や申請内容のお話を伺い、また、相談も受けます。申請書類が完成する前にご予定ください。



寄付プログラム*一次世代の芸術創造を活性化する研究助成

次世代の芸術創造を活性化する提案や政策提言を目的にした調査研究活動を支援する助成プログラム。

*本プログラムは個人からの寄付を財源としています。

I 現代演劇や舞踊界の創造を持続可能にする構想の提案

現代演劇や舞踊界の持続可能性に対する問題意識を土台にした調査、研究を行い、その結果に基づいて、舞台芸術界、公的機関、民間団体へ具体的な構想と戦略を提案する事業。

II 文化政策の制度や仕組みの革新を促す政策提言

現代演劇や舞踊、その他の芸術分野に共通する文化政策の制度や仕組みに関する現状や課題に対する問題意識を土台にした調査、研究を行い、その結果に基づいて、国や地方自治体等の公的機関や民間団体へ具体的な政策やプログラムを提案する事業。

※提案や政策提言の対象は舞台芸術界、国や地方自治体等の公的機関、民間企業や財団法人・社団法人、NPO法人など設定は自由。

※国や地方自治体等公的機関の委託研究や科学研究費助成事業は対象外。ただし他の補助金や助成金との組み合わせは可。

対象者：

下記条件を満たしている個人やグループ（アーティスト、制作者、研究者等）、または芸術団体や文化機関、中間支援団体等

a. 2023年3月31日時点で原則45歳以下、日本に活動拠点を置くこと（団体で申請する場合は、研究事業の代表者が原則45歳以下）

b. 研究経過や成果等の報告をすること

※事業対象期間中に研究の成果と提案内容をとりまとめた研究レポートを提出すること。

※研究成果について、学会やシンポジウムなどでの発表、当財団のニューズレターへの執筆などを期待する。

助成内容：

- 個人の場合、1件につき上限50万円
- グループまたは団体の場合、1件につき上限100万円

※申請者が所属する組織の間接経費、一般管理費等は助成対象外。

※助成終了後の収支決算で余剰金が発生した場合、助成金の一部の返還を求めることがあります。

提出資料：

- ①所定の申請書
- ②申請者の詳しい経歴
- ③研究計画書
- ④収支予算明細書
- ⑤その他、事業に関連する資料（類似研究等の実績が分かる資料）

申請書交付申し込み期間

8月1日～10月6日

申請書および資料提出締切

～10月13日

※資料提出締切後、書類選考を実施し11月下旬に結果通知。通過者は、当財団アドバイザー委員会に対しプレゼンテーションを行う。（詳細は通過者に連絡）

全プログラム共通 申請概要

注意事項:

- ・ 営利を目的とする活動は、対象となりません。
- ・ 地域振興を主な目的とするイベント、活動の対象が特定の観客に限られる事業は対象とならないか、選考の優先順位が低くなります。
- ・ 事業に直接必要な経費のみ対象とします。申請者が所属する組織の間接(オーバーヘッド)・管理・共通経費は対象となりません。

申請方法:

- ・ 申請を希望するプログラムの対象や条件、必要書類を確認のうえ、「助成申請書(申請書)」をお申し込みください。申請書は、要件を満たしている方へ財団より交付します。
- ・ 複数プログラムへの併願申請は可能。但し、同一申請者による申請は1プログラムにつき1件に限ります。
- ・ 締切後、申請書類の追加・変更・返却不可。但し、進捗があった場合は、随時、最新状況を担当者へお知らせください。
- ・ 継続助成をしているプログラムは、毎年継続の可否を見直すので年度毎に申請が必要です。(同一事業に対する継続年数上限あり)

※これまで実施された事業報告は、ウェブサイト内〈過去の事業検索〉からご参照いただけます。

<https://www.saison.or.jp/library/archive>

1「申請書」交付申し込み

締切:各プログラム申し込み締切日(当日の送信は23:59まで)

- ・ 次頁に指定する交付申し込み手続きに従って、e-mailにて活動や事業の概要をお送りください。
- ・ e-mailで受付順に交付します。平日5日経過しても返信がない場合はお問い合わせください。
- ・ 申請書交付申し込み後、担当者から申請書と提出に関するご案内をお送りします。

2 申請面談

期間:各プログラム提出締切前日までの平日(月) —(金)10:00~18:00

- ・ セゾン・フェロー、サバティカル、国際プロジェクトの申請者で初申請、新規事業または3年以上面談を受けていない方を対象とします。(面談履歴はご自身でご確認ください)
- ・ これまでの活動や申請内容のお話を伺い、また相談も受けます。申請書類完成前にご予定ください。

3 申請書類提出【持参不可】

締切:各プログラム提出締切日(当日の送信は23:59まで)

セゾン・フェロー「申請書」交付申し込み

交付申し込み手続き

- 申請書交付はe-mailでお申し込みください。
 - e-mailの件名を「申請書申し込み【希望プログラム名】」とし、本文に、右記の必要事項を番号順にご記載の上、apply23@saizon.or.jpに送信ください。
- ※希望プログラム名には「①セゾン・フェローⅠ」または「②セゾン・フェローⅡ」をご記載ください。

+セゾン・フェローⅠ・Ⅱ共通

- 1) 申請書を希望するプログラム名
- 2) 申請者の活動分野（「演劇」「舞踊」「パフォーマンス」のいずれか1つを選んで記載）
- 3) 申請者名（申請する本人・芸術団体名は併記）
- 4) 申請者住所・電話番号
- 5) 申請書交付先e-mail（添付ファイルが受け取れるe-mailアドレス）
- 6) 面談希望日時
※面談は対面またはオンラインで行います。
※土日祝日を除く平日10:00～18:00の間でご希望の日時と方法（対面／オンライン）を、第3希望まで必ずご記載ください。希望日時のうち30分を目安に設定してご連絡します。
※過去3年以内に面談実施済みの場合は記載不要です。
- 7) 生年月日 [2023年3月31日時点で ____歳]
- 8) 芸術家としての活動歴
※これまでに劇作、演出、振付など創作の構想と実践をした作品のタイトル『（作品名）』（3作品以上）と、今後の主要な活動予定（時期、会場）を含めること。

+セゾン・フェローⅡのみ

- 9) 以下のうち該当する項目（1つ以上）
 - セゾン文化財団からの助成歴（芸術団体主宰者として。フライト・グラントは除く）
 - 受賞歴（戯曲賞、振付家賞等）
 - 招聘歴（国内外の著名なフェスティバルのメイン部門/劇場から）

他プログラム「申請書」交付申し込み

交付申し込み手続き

- 申請書交付はe-mailでお申し込みください。
- e-mailの件名を「申請書申し込み【希望プログラム名】」とし、本文に、右記の必要事項を番号順にご記載の上、apply23@saizon.or.jpに送信ください。

※希望プログラム名には「③サバティカル」、「④創造環境」、「⑤国際」、「⑥研究」をご記載ください。

- 1) 申請書を希望するプログラム名
- 2) 申請者名(サバティカルは本人、事業は代表する個人または団体)
- 3) 申請者住所・電話番号
- 4) 申請書交付先e-mail(添付ファイルが受け取れるe-mailアドレス)
- 5) 面談希望日時
※面談は対面またはオンラインで行います。
※土日祝日を除く平日10:00～18:00の間でご希望の日時と方法(対面／オンライン)を、第3希望まで必ずご記載ください。希望日時のうち30分を目安に設定してご連絡します。
※創造環境イノベーション、研究助成を希望する方は記載不要。過去3年以内に面談実施済みの場合も記載不要です。
- 6) 申請を希望する事業概要(400字以内)
※企画名、企画内容、実施期間、開催地、会場をご記載ください。
- 7) 6)に係わる申請者の活動歴(400字以内)
- 8) 申請担当者の氏名、e-mail、電話番号
※申請事業の問い合わせや採択された際の連絡に対応できる方の氏名や連絡先をご記載ください。

選考について

2022年11月以降アドバイザー委員会からの助言を受けて候補者を選定。
理事会で助成採否を決定します。

結果通知

2023年2月初旬

採否いずれの場合も通知

※創造環境イノベーションおよび研究助成の書類選考結果は2022年11月下旬に通知します。

※選考に関する問い合わせはご遠慮ください。

選考基準

独創性 申請者の活動および申請企画が独自性を有し斬新な発想が認められる。

将来性 申請者または申請事業が長期的展望を有し、その将来性が期待される。

適時性 活動への助成が申請者の今後の成長・発展にとって新たな契機となることが予想される。

影響力 演劇・舞踊の分野のみならず、他分野の芸術家の創造性への刺激、また活動/企画が広く社会的影響力をもつことが期待される。

実現性 スケジュールおよび資金の両面において計画が十分に検討されており、実現の可能性が高い。

森下スタジオ

助成が決定した個人または団体、事業のための稽古専用施設。

本館に3つのスタジオと、新館に1つのスタジオ、ゲストルーム、ラウンジが隣接しておりスタッフルーム、ロッカールーム、倉庫、シャワールーム、会議室を完備した施設です。ワークショップ、会議、レクチャー、シンポジウム等にもお使いいただけます。

利用時間

10:00～22:00(準備・片付けを含む)

※ゲストルームの利用最終日は、正午までにご退室下さい。

維持費

スタジオ:8,000円(C)、2,500円(A、B、S)／1日につき

ゲストルーム:2,500円×使用日数(泊数ではありません)
／1人につき

休館日

2023年4月1日、12月29日～2024年1月3日および臨時休館日

※照明機材などの一部の機材の使用は別途料金が発生します。

※使用日1か月前を過ぎたキャンセルについては使用料が発生します。

森下スタジオの施設概要

名称	間口	奥行	高さ	面積	仕様・設備・備品
Aスタジオ [中] 本館1階	7.5間 /13.5m	4.5間 /8.1m	13.0尺 /3.9m	33.75坪 /109.35㎡	スタジオ仕様: ・ラワン合板床、鏡、レッスンバー
Bスタジオ [中] 本館2階	7.5間 /13.5m	4.5間 /8.1m	13.0尺 /3.9m	33.75坪 /109.35㎡	各スタジオ専用設備: ・ロッカールーム、スタッフルーム
Cスタジオ [大] 本館1・2階	9.6間 /17.4m	7.6間 /13.8m	21.8尺 /6.6m	72.17坪 /238.56㎡	共通付帯設備: ・給湯室、トイレ、シャワー ・コピー、FAX(有料) ・飲料自動販売機 ・駐車場(事前申込制)
Sスタジオ [小] 新館1階	6.2間 /11.3m	3.8間 /6.9m	13.8尺 /4.2m	23.58坪 /77.97㎡	
ラウンジ 新館1階 Sスタジオ横	全利用者に稽古以外のフリースペースとして開放				設備・備品: ・テーブル、イス、ソファ、図書コーナー ・キッチン(事前申込制)
ゲストルーム 新館2階	ツイン(2-3名×1部屋)、シングル(1名×2部屋) ※部屋指定不可 ※長期滞在型家具付レジデンス(清掃等は各自で) ・タオル、アメニティ類なし ・調理器具、ベッドリネン有り				設備・備品: ・机、イス、ベッド ・簡易キッチン、ユニットバス ・電話(有料) ・別室にランドリールーム有り

森下スタジオ

注意事項

- ・使用責任者を定め、使用規則を厳守すること。
 - ・森下スタジオは稽古専用施設のため、原則として公演は実施できません。
 - ・稽古以外の目的で使用する場合、スタジオとの事前打ち合わせが必要です。
 - ・各スタジオの図面や備品、有料貸出機材については財団ウェブサイト内「森下スタジオ」の「施設詳細・資料」をご参照ください。<https://www.saison.or.jp/studio>
- ※感染拡大防止策により、一部仕様変更また設備が使えない場合がございます。ご理解とご協力をお願いします。

森下スタジオ

〒135-0004 東京都江東区森下3-5-6

TEL: 03-5624-5951

※受付時間:10:00～21:00(但し、休館日を除く)

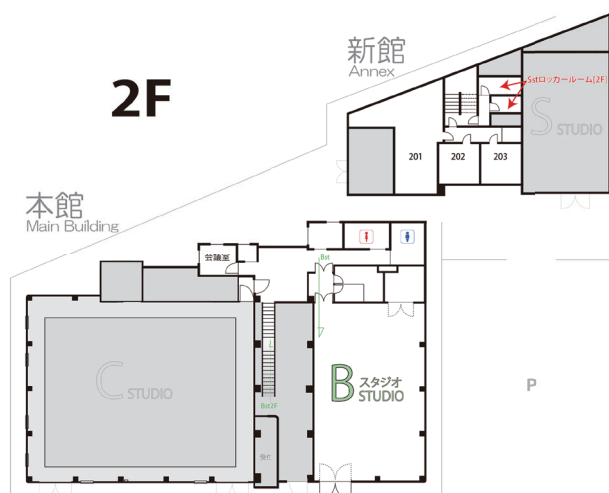
FAX: 03-5624-5950

アクセス

都営地下鉄新宿線、大江戸線「森下駅」A6出口・徒歩5分
(出口左すぐの角を左折し、直進。横断歩道を渡って突き当たり、「山豊護謨」右折すぐ)

東京メトロ半蔵門線、都営地下鉄大江戸線、「清澄白河駅」A2出口・徒歩10分

館内図



全館禁煙。但し、屋外指定喫煙場所有り。

助成履歴のある方へも貸出

2023年度中の空き状況は当財団ウェブサイト内「森下スタジオ」で開示。過去の助成対象者、所定の条件を満たした個人または団体のみ対象。

<https://www.saison.or.jp/studio>

募集開始

2022年8月1日(月)

「申請書」交付申し込み

9月21日(水)

セゾン・フェロー

10月6日(木)

サバティカル／創造環境イノベーション／研究助成／
国際プロジェクト支援

申請書類提出締切(必着)

9月29日(木)

セゾン・フェロー

10月13日(木)

サバティカル／創造環境イノベーション／研究助成

10月20日(木)

国際プロジェクト支援

結果通知

2023年2月初旬

※創造環境イノベーション／研究助成の書類選考結果は
2022年11月下旬に通知します。

お問い合わせ

公益財団法人セゾン文化財団

京橋事務所

〒104-0031 東京都中央区京橋3-12-7

京橋山本ビル4階

TEL:03-3535-5566

FAX:03-3535-5565

受付時間:月～金/ 10:00～17:00

e-mail:apply23@saizon.or.jp

※お問い合わせの場合、件名を「問い合わせ」としてください。

公募情報やイベントのお知らせをウェブサイトやTwitter、
Facebookで随時、発信しています。

<https://www.saizon.or.jp>

<https://twitter.com/SaizonFound>

<https://www.facebook.com/thesaizonfoundation>

寄付のお願い

当財団の趣旨に賛同し、活動を支援していただける
法人賛助会員を募っております。詳細につきましては、
下記のURLからご覧いただけます。

<https://www.saizon.or.jp/support/>